



# Creativity & Challenge

株主・投資家の皆様へ

平成18年7月期（第45期）中間事業報告書

平成17年8月1日から平成18年1月31日まで

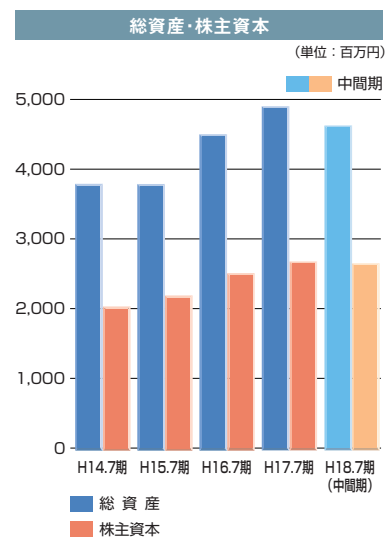
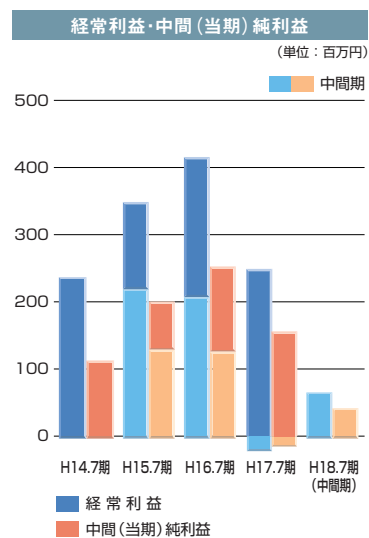
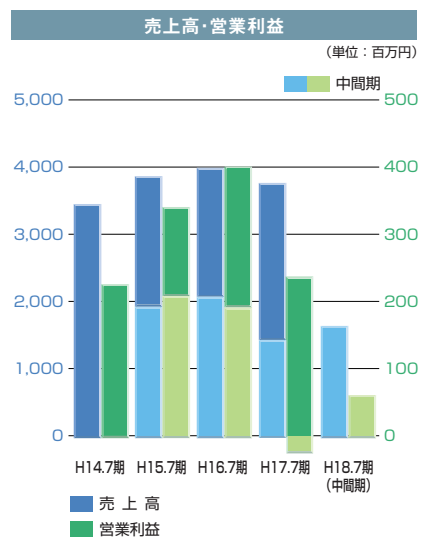


包装システムのトータルプランナー

**ゼネラルパッカー株式会社**

(単位：百万円)

		平成14年7月期 (第41期)	平成15年7月期 (第42期)	平成16年7月期 (第43期)	平成17年7月期 (第44期)	平成18年7月期 (第45期)
売上高	中間期	—	1,884	2,033	1,392	1,620
	通期	3,414	3,829	3,983	3,726	4,300 (予想)
営業利益又は 営業損失(△)	中間期	—	208	191	△23	59
	通期	222	337	401	240	294 (予想)
経常利益又は 経常損失(△)	中間期	—	215	203	△19	65
	通期	233	345	412	245	300 (予想)
中間(当期)純利益又は 中間純損失(△)	中間期	—	125	122	△12	42
	通期	109	197	249	152	177 (予想)
総資産		3,757	3,752	4,463	4,870	4,627
株主資本		1,994	2,153	2,587	2,644	2,653



代表取締役会長 原 淳 代表取締役社長 梅森 輝信

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第45期の中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

● 当中間会計期間業績の総括

当中間会計期間の包装機械業界は、需要業界の設備投資の回復には、業種間・企業間において二極化の傾向がますます強まっている状況にあり、全体としては中小企業を中心に設備投資意欲はなお慎重姿勢が続いております。

このような経済環境の中で、当社は展示会への出展、設備投資需要の増加が期待される分野への受注活動の強化、海外案件の開拓等、積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、売上、利益ともに前年同期を上回る結果を出すことができました。

● 中期経営計画の達成に向け 施策

当社は、前期より「上場企業としての社会的基盤固めの時期」と位置づけ、企業ビジョンである『社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業』の実現を目指して各施策を推進中であります。また、平成20年7月期を最終年度とする中期経営計画において、当期を「再スタートの期」として経営計画達成を最重要課題として位置づけ、以下の課題を掲げて、具体的な施策を推進中であります。

- ① 営業本部4部体制の確立と東京営業部の戦力補強等により、営業体制の強化を図る
- ② 海外市場の開拓・販売チャンネルの拡大を図る
- ③ 開発体制の強化と新機種開発のスピードアップを図る
- ④ 高品質体制の強化を図る
- ⑤ 内部統制システム・コンプライアンス・リスクマネジメント体制の強化に取り組み、コーポレート・ガバナンスの強化を図る
- ⑥ 新人事制度の構築と、人材確保・人材育成の強化を図る

以上に掲げた事項を中心にして、中期経営計画の達成に向けた施策を強化し、一層の業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。

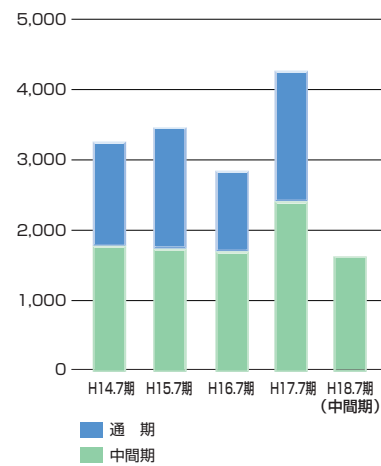
株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年4月



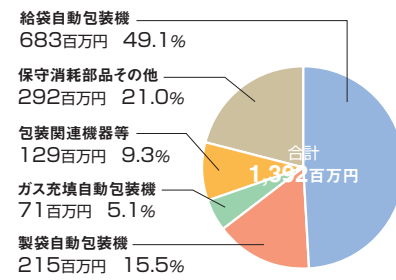
機械受注高

(単位：百万円)

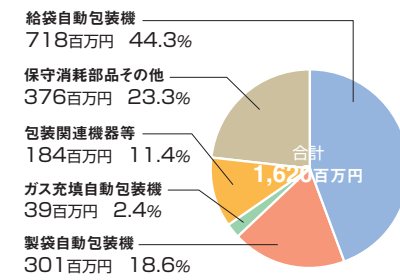


品目別売上高構成比

平成17年1月(第44期中間期)



平成18年1月(第45期中間期)



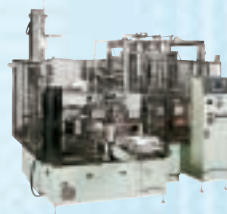
## 給袋自動包装機

粉末から固形物まであらゆる充填物(米菓、キャンデー、ビスケット、スナック食品、穀類、豆類、ふりかけ、パン粉、各種海産物、小麦粉、きな粉、だんご粉、うま味調味料、粉末薬品、機械・電気等の部品、その他袋詰可能な物)に対応できます。また、対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに対応が可能です。



## ガス充填自動包装機

不活性ガス封入(花かつお、コーヒー、バターピーナッツ、お茶、ビーフジャーキー、カットチーズ、生パン粉等のガス充填包装対象物)により商品の Shelf Life を延長させることが可能です。



## 製袋自動包装機

充填物は、給袋自動包装機と同様ですが、小袋の高速包装から大袋用包装(精米、業務用スバグティ、顆粒洗剤、うま味調味料、輸液バック等)までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



## 包装関連機器

当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱うことで、幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能です。



## 当期も〔2005日本国際包装機械展(ジャパンパック2005)〕でアピール

世界20ヶ国・地域のトップメーカー378社が参加し、入場者数約125,000名を記録した、「2005日本国際包装機械展」。包装機械をはじめ、包装資材・包装材料加工機械・食品機械など、各社の最先端技術を公開する様々な新製品が展示されたエキシビションです。当社は平成17年10月18日より5日間、東京ビッグサイトで「Will」をテーマに開催された、社団法人日本包装機械工業会が主催の本展示会に出展しました。

出展は6機種で、うち2つは新機種です。GP-2000UST型は、サーボ制御による自動袋高さ修正装置搭載で安定包装、チャック付スタンドパウチにも対応。また、GP-2550UR型は、新開発の高速高置換ガス充填システムが特長です。いずれも包装・文字検査の実演を行い、それらの機能を強く訴求。ブースにお立ち寄りいただいた多くのお客様に、当社の最新鋭の技術を紹介しました。



## 製品の高品質が認められ、当社は平成17年度の〔愛知ブランド企業〕に

愛知県の製造業は実に28年連続日本一の出荷額を誇り、幅広い分野で日本の製造業のリーダーにふさわしい役割を担っています。そのため、愛知県では平成15年度より、県内の優れたものづくり企業を〔愛知ブランド企業〕と認定する制度を新設。このたび当社は、平成17年度の厳正な審査基準を満し、「食品・化学品・医療用品等を包装する自動包装機専業メーカー」として、〔愛知ブランド企業〕に認定され平成18年1月31日、名古屋・アイリス愛知での認定式において、知事より認定書を交付されました。

認定基準は、「優れた理念・経営トップのリーダーシップ」「人の活性化と業務プロセスの効率化・革新」「コア・コンピタンス(技術・製品・プロセスなどの独自性)」「社会・環境への配慮」などで、それぞれの取り組みや実現度が評価されました。

今後とも当社は、Aichi Qualityの〔愛知ブランド企業〕として食品業界を中心に、さらなる拡販に取り組んでまいりますのでご期待ください。



■ 中間貸借対照表

科目	当中間期(第45期) 平成18年1月31日現在	前中間期(第44期) 平成17年1月31日現在	前期(第44期) 平成17年7月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,720,645	3,132,398	4,184,183
現金及び預金	1,313,191	1,570,241	1,538,422
受取手形	415,648	197,554	331,533
売掛金	555,345	509,159	1,226,623
たな卸資産	1,223,968	698,866	790,114
未収入金	126,298	114,305	196,948
その他	86,193	42,271	100,541
固定資産	906,866	692,121	685,826
●有形固定資産	629,831	507,693	497,871
建物	323,748	343,713	334,738
土地	280,603	135,882	135,882
その他	25,478	28,096	27,249
無形固定資産	2,268	2,567	2,418
投資その他の資産	274,767	181,860	185,536
資産合計	4,627,512	3,824,520	4,870,009

POINT 1

当中間期末の有形固定資産は、本社隣接地の取得により土地が増加したことから、前期末比131百万円の増加となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当中間期(第45期) 平成18年1月31日現在	前中間期(第44期) 平成17年1月31日現在	前期(第44期) 平成17年7月31日現在
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,729,636	1,031,611	1,933,460
支払手形	1,023,513	539,190	1,130,410
買掛金	247,329	229,298	407,487
賞与引当金	32,397	34,027	23,643
その他	426,395	229,095	371,919
固定負債	244,065	285,949	292,195
退職給付引当金	22,160	25,621	26,585
役員退職慰労引当金	221,905	260,327	265,610
●負債合計	1,973,701	1,317,560	2,225,656
<b>資本の部</b>			
資本金	251,577	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269	282,269
利益剰余金	2,084,987	1,961,576	2,099,524
その他有価証券評価差額金	35,929	12,193	11,638
自己株式	△ 951	△ 655	△ 655
資本合計	2,653,811	2,506,959	2,644,353
負債資本合計	4,627,512	3,824,520	4,870,009

POINT 2

負債合計は、前期末比251百万円の減少となりました。これは主として、売上高減少による仕入債務の減少によるものがあります。

■ 中間損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当中間期(第45期) 平成17年8月1日から 平成18年1月31日まで	前中間期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年1月31日まで	前期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年7月31日まで
売上高	1,620,333	1,392,521	3,726,480
売上原価	1,110,932	1,047,441	2,727,082
売上総利益	509,401	345,079	999,397
販売費及び一般管理費	450,049	368,864	758,846
営業利益又は営業損失(△)	59,351	△ 23,784	240,551
営業外収益	6,773	7,628	8,687
営業外費用	928	2,977	3,606
● 経常利益又は経常損失(△)	65,196	△ 19,134	245,632
特別損失	—	100	100
税引前中間(当期)純利益 又は税引前中間純損失(△)	65,196	△ 19,235	245,531
法人税、住民税及び事業税	14,763	437	80,268
法人税等調整額	7,995	△ 6,970	13,040
中間(当期)純利益 又は中間純損失(△)	42,437	△ 12,701	152,222
前期繰越利益	181,549	163,277	163,277
中間配当額	—	—	26,975
中間(当期)未処分利益	223,987	150,576	288,524

POINT 3

経常利益は、前中間期の経常損失に比べて84百万円増加し、65百万円となりました。これは主として、売上高が前中間期比16.4%増加した中で、販売費及び一般管理費が前中間期比22.0%増加したものの、売上総利益が前中間期比47.6%と大幅に増加したことによるものであります。

■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当中間期(第45期) 平成17年8月1日から 平成18年1月31日まで	前中間期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年1月31日まで	前期(第44期) 平成16年8月1日から 平成17年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,687	164,082	166,562
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 224,568	△ 92,457	△ 99,849
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 27,349	△ 35,679	△ 62,586
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	△ 225,231	35,945	4,127
現金及び現金同等物の期首残高	1,538,422	1,534,295	1,534,295
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,313,191	1,570,241	1,538,422

財務探求

財務の観点から、当社をご理解いただくために

設備投資額 **144**百万円

生産能力の拡大、現有設備の老朽化に伴う更新・合理化等による建物及び土地、設備の購入(耐用年数1年以上で取得価格が20万円以上)のための支出の総額です。

前中間期の設備投資額は、本社南隣の新社屋建設等により、152百万円でしたが、当中間期は、本社隣接地を取得したことから、設備投資額は144百万円となりました。

今後とも、業容の拡大を見据えた上で、成長のための設備投資を実施していきます。



## ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。

今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

<http://www.general-packer.co.jp/>



### 本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地  
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

### 東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893